（様式第３号）

SDGs達成に向けた具体的な取組（要件２）

	カテゴリ	非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 （県などの取得認証があれば、併せて記載してください。）	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1	人権・労働		【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出身などによる差別を防ぐ教育体制や相談体制を整備し、差別がないことを確認している	基本	・雇用、教育、昇進、登用、福利厚生などあらゆる雇用条件で、差別しない体制を構築し、経営トップが積極的に関与し、相談窓口を設けている					5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7	
2			【ハラスメント禁止】 ・セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・相談体制を整備している	基本	・ハラスメントを禁止する旨を就業規則に明記している ・研修の実施、相談窓口を設けている ・茅野市はつらつ事業所に認定					5.1 5.2 5.5			8.5 8.8								16.1	
3			【労働時間】 ・過度な長時間労働の防止に取り組んでいる	基本	・長時間労働是正のための労働生産性の改善、時間管理を行い、定時退社を基本としている								8.5 8.8									
4			【外国人労働者】 ・外国人労働者に対する差別、人権侵害がないことを確認している	基本	・現時点では外国人労働者はいない ・【予定】今後雇用する場合は相談窓口など整備を行う				4.4				8.7 8.8		10.2 10.3							
5			【労働安全衛生】 ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる	基本	・安全衛生担当を設け労働安全衛生講習会やパトロールなどを実施し安全確保に努めている			3					8									
6			【メンタルヘルス】 ・労働者のメンタルヘルスを良好に維持できるように対策に取り組んでいる	基本	・メンタルヘルスに関する相談窓口を設けている ・【予定】メンタルヘルスに関する理解を促進するための研修会を2019年度中に実施する			3														
7			【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる	基本	・全社員の50%が女性、また定年後も希望者については継続雇用を実施している ・茅野市はつらつ事業所に認定					5.1 5.5			8.5		10.2 10.3							
8			【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している	基本	・毎年研修計画を作成し研修会などを実施している ・個人別スキル表を作成しそれに基づき計画的に教育訓練を実施している				4	5.5			8	9								
9			【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している	基本	給与規定に、学歴、能力、経験、技能、作業内容などを勘案して決定することを定め、賞与については考課評価表を用いて面談を行い平等な賃金体系としている					5.5			8.5		10.2 10.3							
10			【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる	チャレンジ	・協会けんぽの健診を毎年実施している ・希望者は保健師による健康相談を受けることができ従業員の健康維持に取り組んでいる			3					8									
11	環境		【廃棄物】 ・廃棄物の管理を適切に行い、適切な処理に取り組んでいる	基本	・廃棄物は産廃業者を通じ適切な処理をしマニフェスト管理をしている ・産業廃棄物の種類を管理し適切に分別している											11.6	12.4		14.1			
12			【エネルギー・温室効果ガスの現状把握】 ・自社のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握している	基本	・【予定】2019年度中にすべての量を数値化する							7.3						13				
13			【省エネ・温暖化対策の計画・取組】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる	基本	・照明のLED化と一部高効率空調に更新 ・太陽光発電を利用し電力消費量の削減に努めている							7.2 7.3					12.4	13.3				
14			【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	基本	・法令等で規制されている有害化学物質を調査し、現在、有害化学物質の使用がないことを把握している			3.9			6.3					11.6	12.4					
15			【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	基本	・環境に配慮した製品を通じて生物多様性の保全に配慮している ・当社の製品を利用した廃プラ削減の提案を行っている						6.6									15		
16			【３Ｒの推進】 ・リデュース、リユース、リサイクルに取り組んでいる	基本	・防錆油、水置換液を蒸留再生機で再利用している ・信州プラスチックスマート運動協力事業者に認定												12.5		14.1			
17			【水の管理】 ・水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる	チャレンジ	・節水呼びかけポスター等により節水意識の高揚と節水を励行している						6.4 6.6											

	カテゴリ	非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 （県などの取得認証があれば、併せて記載してください。）	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
18			【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、エコアクション21または同等の環境マネジメント規格を取得している	チャレンジ	・平成28年6月までエコアクション21を取得していたが、それ以降は、自社独自の活動をしている			3.9			6	7					12	13.3	14	15		
19			【環境情報開示】 ・環境の取り組みに関する情報を正しく開示している	チャレンジ													12.6					
20			【再生可能エネルギーの利用】 ・再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	チャレンジ	・太陽光パネルの設置により、再生可能エネルギーを供給している ・機械の発熱を室内暖房に利用している							7.2						13				
21			【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる	チャレンジ	・事務用品のグリーン購入手順の運用をしている												12.2	13	14	15		
22	公正な事業慣行		【汚職・贈収賄防止】 ・汚職・贈収賄を禁止する方針を掲げ、社員に周知している	基本	・汚職、贈収賄に関与無き様、就業規則の懲戒に規定し社内浸透を図っている																16 16.5	
23			【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している	基本	・不正競争行為が無き様、就業規則の懲戒に規定し社内浸透を図っている																16	
24			【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる	基本	・特許、実用新案、商標等知的財産権の取得、管理をしている								8.2 8.3	9								
25			【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している	基本	・顧客情報は専用PCで取扱者を限定し個人に関わる情報を管理している ・ネット販売は取扱者を限定しパスワードを設けて個人に関わる情報を管理している ・【予定】2019年度中に個人情報管理規定を整備																16	
26			【紛争鉱物】 ・紛争鉱物を取り扱っていないことを確認している	チャレンジ	・現在、紛争鉱物は取り扱っていない																16	
27			【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる	チャレンジ						5			8		10		12	13	14	15	16	17
28	製品・サービス		【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している	基本	・生産や出荷など想定されるリスクを洗い出し対策を実施している ・安全確保を踏まえた取扱説明書を作成している ・PL保険に加入し管理している			3.9									12.4					
29			【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している	基本	・ISO9001の認証取得し法令順守に則った品質管理を行っている ・製品に関するお問い合わせ専用ダイヤルを開設している									9								
30			【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	チャレンジ	・製品開発時に製品の環境への影響の把握をおこなっている						6						12	13	14	15		
31			【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	チャレンジ	・廃プラ、食品ロスに繋がる製品の展開に取り組んでいる ・超高齢社会に向けた製品の開発に取り組んでいる	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

		非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 （県などの取得認証があれば、併せて記載してください。）	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
32	社会貢献・地域貢献		【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	基本	・子供を対象にしたイベント「サイエンスフェスタ」に可能な限り参加し将来の人材育成につながる活動に協力している ・会社周辺の雪かきや清掃活動を行っている				4					9		11	12		14	15		17
33			【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	チャレンジ	・茅野市消防団協力事業所に加入している ・茅野市の開発支援に感謝し当社製品を寄贈した ・2016年関東・東北豪雨で給水支援を行った				4							11			14	15		17
34			【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用（地消地産、地産外商）している	チャレンジ	・製品の部材は県内企業を優先に調達している								8	9		11	12	13				
35	組織体制		【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有している	基本	・経営理念・品質方針・環境方針を掲示している ・毎年、品質、改善、安全・5S活動および経営目標を示し、全従業員に周知している								8	9								17
36			【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している	基本	・毎年、全従業員で就業規則の確認を行っている ・【予定】2019年度中にコンプライアンス研修を実施する																16	
37			【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制を整備している	基本	・執行役員を責任者とし各職場の所属長を担当者として配置している																16	
38			【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体）	基本	・アンケートによる情報収集を行い製品の改善や開発に努めている ・それぞれの立場で得た情報は職長会で影響を把握し、適切な対応に努めている																16	17
39			【リスクマネジメント】 ・リスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している	チャレンジ	・経営面のリスクマネジメントは会計士と共有している ・ISO9001の活動の中でリスク管理を実施している																16	
40			【社会的責任】 ・ＣＳＲ（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取り組んでいる	チャレンジ																	16	
41			【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している	チャレンジ	・毎年、計画的に避難訓練を実施している ・毎年、消火器の模擬訓練を実施している									9		11		13 13.1			16	
42			【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	チャレンジ	・後継者候補2名を取締役とし、未来経営の構築をしている								8	9								17

上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組	具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
・防災用ペットボトル水を期限ごと廃棄処分せずに、それを浄水して再利用できる「ポリタンク型非常用浄水器コックくん飲めるゾウミニ」の販売を拡大し、廃プラおよび食品ロス削減	・廃プラ削減量 （2019年 1.4t→2030年 累計45.3t） ・廃棄PET水削減量（食品ロス削減） （2019年 27,500L→2030年 累計906,700L） ・販売数 年10%UP （2019年 550台→2030年累計12,000台以上）			3.9			6.3 6.b					11.b	12.3 12.4 12.5	13.1	14.1			
・環境や社会の課題を解決する新製品の開発	・製品シリーズの増加（2019年 4シリーズ→ 2030年 6シリーズ）			3.9 3.d					8.1									
・工程の自動化、省力化を推進し生産性を向上させ低残業維持と待遇改善	・一人当たり生産性 （2030年 1時間当たり10%UP）								8.1 8.5	9.2 9.4								

【記載留意事項】

・「取組レベル」の「基本」の項目のすべてに「具体的な取組」が記載されることが登録の必須条件となります。なお、今回の宣言に合わせて、今後、取り組む予定のものにあっても「具体的な取組」を記載いただければ登録が可能です。（今後、取り組むものについては、「具体的な取組」の前に【予定】と記載してください。）

・「非該当」欄については、「チェック項目」が事業形態上（個人事業主等）、該当しない場合にチェックし、その理由を「具体的な取組」欄に記載してください。

・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載してください。

また、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等（※）を取得している場合は、その旨を併せて記載してください。

（※職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度、信州福祉事業所認証・評価制度、えるぼし認定、森林認証制度、森林CO2吸収評価認証制度、長野県県産材CO2固定量認証制度、消防団協力事業所表示制度など）